

# 大豆栽培管理情報 (第3号)

平成 27 年 7 月 7 日  
アルプス農協管内農業技術者協議会

## 1 培土の実施

～ 2回目培土は、播種後 30～35 日頃が目安 ～

- 2回目の培土は、播種後 30～35 日頃、1回目培土の約 10 日後で本葉が 4～5 枚になった頃が作業の目安です。
- 培土作業では、土の上がりをするため、できる限り、ほ場が乾いている状態で培土作業を行い、特に2回目は初生葉が隠れる程度に確実に実施しましょう。
- 培土作業でできた溝は、その日のうちにうね間や額縁排水溝と排水口とを必ず連結しましょう。

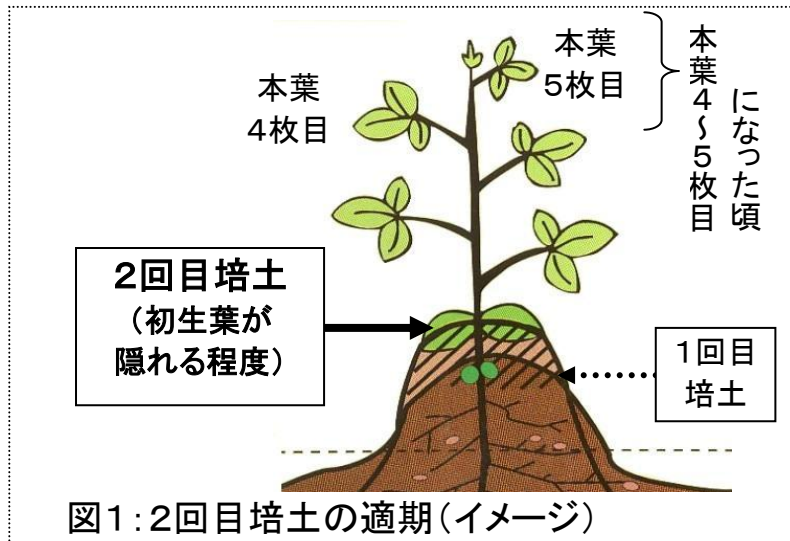


図1: 2回目培土の適期(イメージ)

## 2 雑草防除

～ 難防除雑草を増やさない ～

- 培土後も雑草が多い場合、雑草の種類や葉齢に応じ、茎葉処理除草剤等を適切に使用しましょう(表1)。
- 特に、難防除雑草(帰化雑草等: 図2)の早期発見に努め、発見したら直ちに、手取り除草や除草剤散布などで、種子ができる前に確実に防除し、増加を防ぎましょう。



図2: アルプス農協管内で確認された難防除雑草

表1: 除草剤の散布の目安

	除草剤名	使用時期	適用雑草	10a 当り使用量	使用回数
選択性	ポルトフロアブル	雑草生育期 ただし、収穫 30 日前まで	1年生イネ科雑草 (イネ科雑草3～10 葉期)	200～300ml (水 100ℓ当り)	1回
	大豆バサグラン液剤 (注1)	雑草生育初期～6葉期 大豆2葉期～開花前まで ただし、収穫 45 日前まで	1年生雑草 (イネ科を除く)	100～150ml (水 100ℓ当り)	1回
非選択性 (注2)	バスタ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ・株間処理(本葉 5 葉期以降) ただし、収穫 28 日前まで	1年生雑草	300～500ml (水 100ℓ当り)	グルホシネット及び グルホシネットP 3回以内
	ザクサ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ただし、収穫 28 日前まで	1年生雑草	300～500ml (水 100ℓ当り)	グルホシネット及び グルホシネットP 3回以内

注1: 大豆バサグラン液剤は高温時の使用で薬害が出る恐れがあるため、高温が続くと予想される場合は使用を避ける。  
注2: 非選択性除草剤については、大豆の葉にかからないように散布する。

## 3 病虫害防除

ウコンノメイガの幼虫による葉巻が見られたら、防除しましょう。また、シュウレイについては2回培土後に葉焼病の予防散布を実施しましょう。

表2: ウコンノメイガ等の随時防除薬剤

	液剤	粉剤
ウコンノメイガ	プレバソフフロアブル 5 4000 倍・使用液量: 150ℓ/10a	サイアックス粉剤 4 kg/10a
葉焼病	Z ホルター 500 倍・使用液量 150ℓ/10a	撒粉ホルター粉剤 DL 4kg/10a

注: 防除の際は、隣接地の他作物への農薬飛散に留意する。

## 4 うね間かん水

大豆は、開花期から8月下旬までが、最も水分を必要とする時期です。

開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土壌の乾きに応じてうね間かん水を行きましょう。

なお、かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。